

# 秋

vol.65

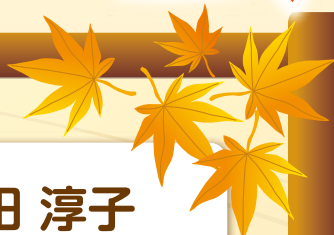
2018.10



My Polaris  
曾田副部長の  
ポラリス

ポラリス(北極星)を目指すには  
北極星を見分けること。  
目指すところ(方向)は一緒でも  
やり方はそれぞれ多種多様。  
一人一人の思いをエッセイの形で  
伝えたい。

ときめき  
Beating  
Kashima  
鹿島



## 看護副部長 曾田 淳子

回復期リハビリテーション病棟が開設されてから10月で11年目に入ります。最初は27床から始まり現在は57床となりました。この10年間に診療報酬改定が繰り返され日常生活機能評価の評価者研修、自宅退院支援、病棟環境の整備、看護師配置基準、回リハ看護師認定等その都度ハードルをクリアしてきました。日本医療機能評価機構の機能評価認定を受け、そして、現在は回復期のさらなる質の向上を求めて栄養管理やアウトカム評価が求められています。

現在ICFにそって障害、情報を整理し、対応していく取り組みをチーム全員で行っています。リハビリテーションの目的は本人・家族の望む生活に近づくことです。そのためには、多職種協働が重要です。ADL動作を中心にした心身機能や活動能力を把握し、さらには参加状況や環境・個人因子を把握したうえでケア計画、リハビリテーション計画、リスク管理を含めてゴールをチームで決定共有していきます。

多職種協働のポイントの中で、介護福祉士の役割、位置づけを考えていかなければならないと思っています。前職で介護士養成に携わっていました。「介護」のプロを目指して専門職としての知識と技術を求めてきました。しかし、病院という医療の中での介護職は看護補助者という位置づけです。医療機関と介護施設では業務内容の定義が異なります。今求められている医療は、住み慣れた家で自分らしい生活ができることを目標としています。退院後の生活を見すえた介護指導など介護の専門職がリードしていく部分が多く、協働によるチームワークをさらに強力に推進していく必要があると思います。

地域包括ケアシステムや新たな医療提供体制の構築が進められていますが、医療と生活・介護をつなぐ知識、技術、情報を持つ人材が大きな役割を担うことが期待されます。多職種それぞれの役割りを発揮しつつ協働できるようバックアップしていきたいと思っています。



# 高校生・中学生 職場体験

今年も、たくさんの中学生・高校生の皆さんが、各種医療現場体験事業に参加されました。参加人数は8日間で合計29名と、過去最多でした。



医師 田井 道夫

口は災いの元、あるいは瓢箪から駒。ひよんなことから、主に医学部を目指す生徒さんたちと、お付き合いすることになり、実習と称して、鶏肉(皮付き)をメスで切開、正式な縫合糸および持針器他を用いて、縫合の練習をしてもらいました。結構、器用な人も多く、有望。鶏肉は直後に有効利用しました。幸い好評だった様です。ご協力感謝。



医師 戸田 博敏

スライドでは「仕事とコミュニケーション(以下Cと略記)」というタイトルで持論を聴いていただきました。「仕事はCでしょ」、鹿島病院にきてから、ある職員から教えていただいた言葉です。私自身、その時ちょっとした衝撃でした。Cは仕事に大切なものを通り越して仕事そのものだという考え方。現在では「Cは生きること(そのもの)」だと考えています。正しいかどうかは、彼、彼女にこれからの人生、仕事で確かめてもらえたらなという思いです。また心エコー検査では被験者役をしてくださった事務部 原 栄嗣、坂根伸彦、両氏には感謝申し上げます。

それにしても田井道夫 先生の鶏肉を使った、縫合実習はimpressiveで楽しく大変好評でした。

## 各実施事業ごとの参加者数

実施事業	体験職種	
	医師	看護師
夏期高校生医療現場体験セミナー	17名	—
中学生地域医療現場体験事業	2名	4名
高校生一日看護体験	—	3名
中学生一日看護体験	—	3名
合計	19名	10名

## 体験内容

**医師**  
 病院紹介(慢性期医療を行う病院の特色等) / 手洗の実習 / リハビリテーションの見学・車いす体験 / 縫合体験 / 医師の講義 / シミュレーターを使った医療処置の演習 / 血液型検査 / 画像検査 / エコー / 心電図見学実習 / 病院食試食

**看護師**  
 病院紹介(慢性期医療を行う病院の特色等) / 手洗い研修 / 血圧測定 / 車いす体験 / シミュレーターによる演習(吸引、採血) / シーツ交換 / 患者さんとのコミュニケーション / リハビリテーションの付き添いや見学 / 病院食試食



シミュレーターを使った食事と嚥下についての演習

車いす体験



縫合体験

患者さんとの交流



## 体験者の感想

### 医師の体験

● 仕事はコミュニケーションが大切だ  
 ● という話が印象に残っている(高1)

● 今回の体験で、進路についてもう一  
 ● 度しっかり考える機会になった(高1)

● 実際に人工呼吸器を使っているところ  
 ● を見ることができたり、縫合体験が  
 ● できてよかった(高2)

● 臨床検査技師体験が印象に残っていま  
 ● す。病院は医師だけでなく、患者や家族  
 ● を病院全体でサポートしていることが分  
 ● かった(高2)

● 車いす体験をしてみて、段差を上がる時や車  
 ● いすが傾くのが怖いことがわかった(高1)

### 看護師の体験

● 看護師の仕事は採血や献血以外にも、患者  
 ● さんとのコミュニケーションがとても大事だと  
 ● 思いました。電動ベッドに寝てみたり、車いす  
 ● に乗る体験をしましたが、想像以上に怖く、患  
 ● 者さん目線も体験できてよかったです(高3)

● 看護師さんの一つ一つの動作にもちゃんと  
 ● 意味があり、その意味を知った上で行動する  
 ● ことは大切だと分かりました(中3)

● シーツ交換の時、枕カバーの折り目の向きや、  
 ● ベッドの高さや角度など、患者さんに寄り添うよ  
 ● うに気遣われていることがわかりました(中3)

● 一番心に残ったのは、何事にも一人で取り  
 ● 組むのではなく、医師・看護師・薬剤師な  
 ● ど、専門がそれぞれあっても大きな意味で  
 ● 一つの大きなチームとして協力しあいなが  
 ● ら働いていること。(高1)

● 「病院」という施設は、多くの医師と数名  
 ● の看護師で構成されているものだと思っ  
 ● ていたが、今回のセミナーに参加して、医  
 ● 師をサポートする存在が看護師だけでなく  
 ● 理学療法士、作業療法士などもたくさ  
 ● んいることを知り驚いた。(高2)

● 縫合体験が一番印象に残っており、貴重な体  
 ● 験で楽しかったです(高2)

● エコーや心電図の体験が印象に残っていま  
 ● す。心臓の動きや働きを知ることができま  
 ● した。(高1)

● 縫合体験の際、先生から聞いた話が一番印  
 ● 象に残っています。医師になることは、覚悟  
 ● が必要だと感じました。医師は生と死と向き  
 ● 合えなければならなくて本当に大変で疲れ  
 ● る仕事です。それでも私は医師になりたいと  
 ● 思いました。(高1)

● 患者さんの体のことを考えて行われている病棟  
 ● でのお茶会が、患者さん同士触れ合うことがで  
 ● きて楽しそうで、印象的でした。看護師は医療  
 ● 技術だけでなく、患者さんとのコミュニケーショ  
 ● ンや他にもたくさんのスキルを身につける必要  
 ● があると思いました。

● 病院には、いろいろな職種があると知りまし  
 ● た。看護師さんの仕事内容も、思っていたよ  
 ● り沢山あって大変そうでしたが、いつも元氣  
 ● で笑顔で患者さんに寄り添っている職員さ  
 ● んの姿を見てやりがいのある仕事だと感しま  
 ● した。(中3)

## 鹿島レンジャーに学ぶ(10)

～「鹿島病院の唄」大合唱への軌跡～

## 鹿島レンジャー、メッセージを伝えるの巻

診療部 医師 戸田 博敏

「過去は未来への道しるべ」最近あるTV番組\*1)で出会った言葉です。今、この瞬間も次々と過去になってゆく。現在、過去だけでなく、未来も、だれかが口にする言葉でしょう。

リハーサルを経てようやく大合唱当日にたどり着きました。

**プログラム** とき:平成21年3月22日(日) ところ:松江市鹿島文化ホール 第6回 医療法人財団公仁会 院内研究発表大会 大会テーマ 終末期と回復期 (小鯖 覚 先生の提唱)

8:40受付開始、9:00開会。午前部、院内研究発表は15演題エントリーされていました。13:45 鹿島レンジャー「鹿島病院には若さが足りない\*2)の巻」とあります。もちろん「鹿島病院の唄」大合唱とは一言も印刷されていません。先生へのサプライズプレゼントですから、その時まで。

**一瀉千里\*3)** 昼食休憩後、会場準備が整いました。

13:45 鹿島レンジャーのスライドのアニメーションがBGMとともに動き出します。リハーサルまで準備してきたプロットが回り出しました。大団円、鹿島病院の唄大合唱まではあつという間、夢のような時間…。色とりどりの折鶴が舞い降り、鶴鯖(大)\*4)に変身して泳ぎだします。鶴鯖(小)\*4)がメールを啜えて現れます。封が開きメッセージ「鹿島病院には若さが足りない」の巻。が出てきました。

「ワッハハハ」。「ウワー ウワー」。どこからともなく聞こえてくる笑い声とうめき声。

悪役ボスが、手下の馬にまたがり、ハリセンで人質のお尻のあたりをたたきながら登場です。(会場拍手)ボス「ほら、歩け、歩け、この野郎」。人質「ウワー ウワー」。

レンジャー3人組グリーン、ピンク、レッドの登場。(会場笑い拍手)

レンジャーと悪役の闘いになります。(詳述略)、結果、レンジャー3人ともボスに打ちのめされ気を失います。

ボス「なんだ、こいつらは、つまらん者どもだ。」、手下の馬をたたきおこし「いいかげん、帰るぞ。こっちだ。前が見えんだろ(馬の被り物をしているので)馬をたたき起こす。「ハッハハハハ」ボスと馬、舞台袖に消える。レンジャーたち目を覚ます。反撃しようと思しますが、悪役が見当たりません。「ありがとう鹿島戦隊」と手を振りながら退場する人質。(会場なぜか笑い。)

**My favorite scene** レンジャーがメッセージを伝えます。個人の好みで恐縮ですが私の好きなシーンです。レンジャーのストーリーは幼稚かもしれませんが、しかし素朴な言葉は信じてよいと思えるのです。

レッド「ところで今日の院内研究のテーマは終末期と回復期でえやつだよな。俺たちには難しいような…」頭を抱え込むレッド。

ピンク「誰だ!こんな難しいテーマを考えたのは?!」

グリーン「決まってるじゃないですか、うちの院長のDr. マイケルが…」

「欧米か?!」レッド、グリーンのをたたく(会場笑)ピンク「違うだろ!!うちのー、うちのー」、レッド「八兵衛か?!」ピンクの頭を叩く。

レッド「違うだろ、ピンク、うちの小鯖院長が…」グリーンとピンク、口を揃えて「真面目か?!」レッド頭を叩かれる。

レッド「まあ冗談はこれくらいにして、今、鹿島病院には若さが足りないらしい。いいの、こんな終末期と回復期で…、俺達の…、俺達が問われているわけだ。」大いに頷くピンク。レッド、グリーンの方も見る。グリーンも頷く(頷かざるをえない)。

ピンク「よし」、レッド「よし」、ピンク(つぶやくように)「問われてるんだ」(会場笑)

グリーン「過去を振り返るだけでなく未来にも挑戦しなければなあ」遠く空の方を指差す。

レッド「そうだな」。舞台袖から声「おーい、ちょっと待ってくれ」悪役ボス、手下の馬にのり再登場。

レンジャー「あ、また来た」

馬を誘導するボス「もうちょっとこっちに来なさい」。

馬からおりて「問題意識を持てば自分のやっていることに意味があるがどうか分かってくる。」「俺がこんなこと言うのも変だけど、これから力を合わせて、みんなでより良い終末期医療を提供していこうじゃないか!」会場に向かってハリセンを何度も振り上げ拍手を促す。(会場拍手)

レンジャー「よう、お前なかなかいいことを言うじゃないか」(以下略)。

会場客席の小鯖先生、めっちゃ(平成もあとわずか、たまには平成語も使ってみます)、笑顔。

ほんの少しでもいいから ~♪  
あの病人(ひと)に与えて上げたい ~♪  
ときめいて鹿島 ~♪  
きらめいてこの病院(いえ) ~♪

解説:  
平成20年(2008年)6月鹿島病院前院長(故)小鯖覚先生が悪性リンパ腫のため松江赤十字病院に入院されました。病と闘うリーダーに「全職員による鹿島病院の唄大合唱」をサプライズプレゼントしようと鹿島レンジャーを含む有志が立ち上がりました。その顛末を報告しています。

\*1)2018年8月、NHK映像ファイル アンコール あの日に会いたい。中村文子(1フィート運動の会)  
\*2)平成20年7月、鹿島病院新入職者歓迎会会場に病床の先生から全職員宛に「鹿島病院には若さが足りない」のメッセージが届く。  
\*3)一瀉千里 いっしやせんり ①川の流れが早く、すぐ千里くらい流れること。②物事が滞りなく急速に進むこと。…新小辞林  
\*4)平成20年7月、検査室Nさんの呼びかけで職員が鶴を折り、その折鶴で大小の鯖の貼り絵を作成。職員のメッセージが添えられ闘病中の先生に贈られた。

Textbook

## 鹿島病院での研修を終えて

鳥取大学医学部附属病院 研修医2年目 池田 傑



往診へ同行

平成30年7月に1ヶ月間鹿島病院で研修させていただきました。昨年度は松江市立病院で研修し、今年度は主に鳥取大学病院で研修しています。どちらも急性期の病院であり、慢性期医療については正直あまり理解しておらず、鹿島病院にきて初めて慢性期医療に直接関わることが出来ました。

急性期病院では殆どの場合「疾患」が患者さんにとって最も大きな問題となっていますが、鹿島病院に入院されている患者さんは必ずしもそうではなく、疾患罹患後の麻痺や筋力低下、元々の栄養状態の問題、退院後の在宅/施設での生活の問題などがあり、リハビリや栄養管理、福祉支援によるサポートなどが必要な患者さんも多く存在します。その分、「疾患」以外の部分にもっと目を向ける必要があります。

鹿島病院に来てまず驚いたのがカンファレンスの多さとカンファレンスに参加する職種の多さです。鹿島病院では患者さんの入院直後に早速カンファレンスがあり、医師だけでなく、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの職種が集まり、それぞれの職種の方が現在の問題や今後の方針をどう考えているかを共有します。入院後も定期的にカンファレンスを開き、患者さんの状態や今後の展望等を全体で共有しています。

それぞれの職種の方が自分とはまた違った状況、違った視点から患者さんに関わっており、例えばリハビリ中の様子、食事の際の様子、夜間の様子、家や家庭の状況のことなど、他職種の方の話を聞いて初めて気づくような点も数多くありました。そういった点を全体で共有することで初めて患者さんの全体像をしっかりと把握することが出来るようになり、他職種とのコミュニケーション、連携の重要性を改めて実感しました。

また骨折、脳卒中、パーキンソン病、癌末期、レスパイト入院など様々な患者さんに関わることができ、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリなどにも同行させていただきました。1ヶ月間という短い期間ではありましたが、これまでとはまた違った経験を積むことができ、濃厚な時間を過ごすことが出来ました。鹿島病院での経験を活かせるよう今後も経験を積んでいきたいと思えます。



患者さんとのひととき



医師との食事会

地域連携室便り 60

リハビリテーション・ケア合同研究大会  
米子2018に参加して

医療相談員 畦地 なつき



先日、米子で開催された「リハビリテーション・ケア合同研究大会」に参加させていただきました。私は今回、当院の回復期病棟の現状とMSWの動きについて振り返り、MSWの退院支援の在り方についてまとめ、発表しました。研究を行う中で、MSWの業務内容をデータで表すことや、病院で勤務するMSWの役割や必要性について明確に伝えることの難しさを感じました。

当日の会場からは、入院してこられる高齢者の割合が高く関連施設等もない中、入院基本料1を算定していることについての評価の声や、データとまとめとのつながりが見えにくかったといった意見もいただき、今後の研究の糧となりました。

私は当院で勤務を初めて1年が経ちました。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を取得し、病院に相談員として勤務をはじめてから8年目になります。それぞれの病院の機能や地域性、特色に

よってMSWの働きも微妙に違ってくるように感じています。今回自身の業務を振り返ることで、相談員として培ってきたこと、まだまだ未熟だと感じるころ、いろいろ発見できたと思います。今後もMSWとしてのスキル向上のため、励んでいきたいです。



転倒予防指導士

リハ部 吾郷 竜一



台風12号が日本列島を異例の進路で縦断した真只中の7月28・29日、京都にて転倒予防指導士という資格取得の為、研修と認定試験を受講して来ました。転倒予防指導士？余り聞いた事のないマニアックな資格ですね。高齢者の死亡や寝たきりの原因としての「転倒および転倒による外傷・骨折」は健康寿命の延伸のために重要な要因となっています。家庭内や地域社会、病院や福祉施設など、身の回りのあらゆる場所で転倒は起こっています。日本転倒予防学会では、「転倒に対する正しい知識と経験」の啓発活動を行って、学術の発展とともに健康増進に寄与する事を目的として数年前から「転倒予防指導士」の認定制度が開始されました。資格取得の目的として、私が理学療法を行う上で、治療の軸としているのが、身体構造や運動力学と感覚的要素（認知面を含めた）を軸としており、転倒発生のメカニズムもその一つです。さらに、転倒に対する幅広い知識や取り組みなど学びたいと思い、受講させて頂きました。

受講者数は全国から85名、講習会では、転倒予防の基本理念や転倒予防の現状と転倒後の外傷、転倒のリスク評価、運動療法について学びます。更に、転倒に関係する疾患や認知症者の転倒予防、病院、福祉施設および地域社会での転倒予防方法についてなど、幅広く内容の濃いものでしたが、講師の先生の分かりやすい講義やグループディスカッション等あり楽しく学べ、その後の認定試験に臨むことが出来ました。

今後は、病棟での取り組みや、学術大会での発表など、何らかの形で転倒予防について配信出来ればと思っています。



新企画 成年 犬の自慢



ウチきちゃん 2才



ウチきちゃん 9才



看護部 井上 倫実・美智 さん



事務部 福田 摩実 さん



ウチきちゃん 2才

研修報告

全職種研修会

看護部 福村 智之



平成30年7月28日、29日に東京都港区でおこなわれた回復期リハビリ協会主催の「第111回全職種研修会」に当院から看護師、介護士、理学療法士、作業療法士の4名が参加させていただきました。研修ではその他にも医師、医療相談員、栄養士など回復期に携わる全職種が参加し、一つの症例について2日間のグループワークをおこないました。ICFの参加目標を達成するために入院中の各職種の支援のタイムスケジュールを立て実際に分刻みでのカンファレンスを行ってみて、ICFの考え方はもちろんカンファレンスの質の向上についても考える良い機会になりました。また、今年度の診療報酬改定を踏まえて「栄養管理の推進」についての講義もあり栄養サポートにおける多職種の役割を再認識できました。今回の研修を通して患者の退院後の参加目標を達成できるよう多職種協働でのよりよい退院支援とカンファレンスでの目標設定について周知していきたいです。ありがとうございました。



人事のお知らせ

NEWS

入職

- ①趣味・特技は何ですか？
- ②好きなもの・好きなことを教えてください。
- ③一言ご挨拶をお願いします。

50音順



看護部 4F  
田中 千代

- ①ショッピング
- ③9月からお世話になります。不慣れでご迷惑をおかけすることが多いとは思いますが、患者様に寄り添える看護を目指して頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。



事務部 医事課  
辻沙耶可

- ①絵を描くこと 犬猫と遊ぶこと
- ②食べる
- ③慣れるまでご迷惑をおかけしますが、早く仕事に慣れるよう一生懸命頑張りますので、どうぞ宜しくお願いします。



看護課 4F  
長谷川 光

- ①寝ること
- ②バスケットボール
- ③笑顔を忘れず、明るく患者さまと接していきたいです。医療の場から離れていたため、改めて勉強し頑張りますのでよろしくお願いします。



看護部 3F  
渡邊 拓也

- ①読書
- ②甘い物
- ③1日1日を大切に、成長していけるように努力していきたいです。病棟の戦力になれるよう精進致しますので、ご指導の程よろしくお願致します。



看護部 4F  
渡部 春香

- ①体を動かすこと
- ②音楽フェスやライブに行くこと
- ③慢性期病棟で働くのは初めてですが、未経験のことにも積極的に取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願致します。

職員数

職種	職員数
医 師	7名
薬 剤 師	2名
P	22名
O	19名
S	6名
看護 師(准 看護 師)	90名
臨 床 検 査 技 師	2名
診 療 放 射 線 技 師	1名
M S W	5名
介 護 支 援 専 門 員	6名
介 護 福 祉 士(介 護 職 員)	61名
歯 科 衛 生 士	2名
管 理 栄 養 士(栄 養 士)	4名
調 理 員	11名
事 務 職 員	17名
	255名

30.10.1現在

退 職

山野 京子(看護部) / 石川 美由紀(看護部) / 安食 真理(看護部) / 中島 彩賀(看護部) / 井上 美和子(診療部栄養課)

公仁会事業報告

H30.7月.8月.9月

患者重症度指数 強化項目  
リハビリ数

鹿島病院 ①外来

診療日数 63日	1日平均患者数
延べ外来患者数	1,105人
	17.5人/日

②病棟 2F特殊疾患病棟

診療日数 92日	1日平均患者数
延べ入院患者数	5,055人
	54.9人/日
レスピレーター装着延べ患者数	1,854人
	20.1人/日
特殊疾患対象 延べ患者数	793人
	8.6人/日
重症意識障害	2,253人
	24.4人/日
神経難病	1,397人
	15.1人/日
直近1年間の特殊疾患対象患者割合	83.5%

3F回復期リハ病棟

診療日数 92日	1日平均患者数
延べ入院患者数	4,021人
	43.7人/日
回復期リハ病棟対象患者割合	99.5%
平均リハ提供単位数	6.5

直近6か月間の新規入院患者	重症者の割合	44.6%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合		93.6%
直近6か月間の重症改善率(4点以上改善)		73.5%
直近6か月間のアウトカム実績指数		52.7点

4F療養病棟

診療日数 92日	1日平均患者数
延べ外来患者数	2,882人
	31.3人/日
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合	88.1%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	85.2%

4F地域包括ケア病棟

診療日数 92日	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,151人
	23.3人/日
A・C項目患者の割合	32.9%
平均リハ提供単位数	2.4
在宅に退院した患者の割合(10~12月)	81.5%

短期入所療養介護

ショートリハ延利用者数	20人	0.2人/日
-------------	-----	--------

在宅サービス部 ①通所リハビリ“やまゆり”

稼働日数 78日	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,582人
	33.1人/日
短期集中リハビリ実施数	298単位
	3.8単位/日

②訪問リハビリ“つばさ”

稼働日数 62日	月平均策定数
訪問リハビリ延利用者数	152人
	2.5人/日
訪問リハビリ延べ単位数	404単位
	6.5単位/日

③訪問看護“いつくしみ”

稼働日数 60日	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	194人
	3.2人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	582人
	9.7人/日
訪問看護延利用者数(医療・介護・リハビリ)	244人
	4.1人/日

④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

稼働日数 60日	月平均策定数
延べケアプラン策定数	454人
	15.1人/月
延べ介護予防ケアプラン数	75人
	2.5人/月

医療法人財団公仁会 基本理念

私たちは、仁愛をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

医療法人財団公仁会 基本方針

- ①鹿島病院を中心に地域と連携して、良質な慢性期医療を確立します。
- ②患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりとつくしみの心で接します。
- ③技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

医療法人財団公仁会 行動指針

- ① Safety …安全を最優先します。
- ② Speedy …変化に能動的に挑戦します。
- ③ Service …おもてなしの精神で接します。

医療法人財団公仁会中期ビジョン2016

質の高い回復期・慢性期医療及び在宅を支える医療を提供し、松江橋北地域の地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関となる。

1. 良質な回復期・慢性期医療の提供(病院機能)

- (1)回復期医療の充実
- (2)良質な慢性期医療の提供
- (3)質の高いリハビリテーションの提供
- (4)看護体制の充実と強化

- (2)予防医療や介護技術を地域へ普及
- (3)地域への情報発信

4. 人材の確保 及び 育成

2. 在宅生活を支える医療の展開(在宅サービス機能)

- (1)良質なリハビリテーションの提供
- (2)良質な在宅生活支援サービスの提供

5. 医療安全・院内感染対策の推進

6. 医療サービスの質の改善への取組み

- (1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動
- (2)臨床指標(Clinical Indicator)の検討・活用
- (3)患者満足度向上の組織的取組み
- (4)施設・設備・環境の整備と充実

3. 地域連携 及び 地域貢献

- (1)病院連携、病診連携、地域(行政(県・市・保健・福祉・介護)、地区)連携

7. 新電子カルテシステムの検討・移行準備

患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

1. 個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財団のスタッフでよく話し合い決定していきます。

また医師から提案された医療・介護サービスに同意できない場合は、拒否することもできます。拒否することで不利益をこうむることはありません。その選択にあたっては、他の医療・介護サービス機関の意見を聴く(セカンドオピニオン)ことができます。

2. 平等で最善の医療と介護サービスを受ける権利

患者様・利用者様は、平等で安全に配慮された最善の医療・介護サービスを受ける権利があります。

4. 情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財団で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

3. インフォームド・コンセントと自己決定権

患者様・利用者様は、医療と介護サービスに関することについて、わかりやすい言葉や方法で説明を受け、その内容を十分に理解した上で選択・同意し、適切な医療・介護サービスを受ける権利があります。

5. プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしに開示されません。

鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定(平成22年1月6日：部長会承認)

- 1. 患者様の人権を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
- 2. 患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。
- 3. 終末期治療方針は、医学的に妥当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多職種よりなるケアチームで決定します。
- 4. 患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
- 5. 臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。



## 松江市内施設対象嚥下調整食勉強会を開催しました



診療部栄養課 澤 幸子

10/5(金)栄養課主催で松江市内の老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどの職員対象の勉強会を開催しました。わが国での高齢化は深刻となっており、国をあげて地域包括ケアシステムの構築が進んでいます。医療や介護の業界でも、「地域連携」は一つのキーワードとして、多くの取り組みが行われ始めています。当院でも栄養課として何かできることはないか?「食」を通して地域連携できれば、地域貢献につながるのでは?という思いがあり、勉強会の開催に至りました。

8月終わりから研修会の告知をはじめ、当日は13施設23名にご参加いただきました。栄養士、調理師など調理従事者の参加が多い中、歯科医師、歯科衛生士、看護師、介護福祉士など多職種の参加がありました。

勉強会は①鹿島病院紹介、嚥下調整食について、鹿島病院での栄養管理の3部構成で行いました。中でも②嚥下調整食については、当院調理師が作製した「嚥下食弁当」を利用し、言語聴覚士から試食を交えた講義をしていただきました。参加して下さった施設には言語聴覚士がほとんどいなかったようで、口や喉の動きから嚥下調整食について学べる良い機会になったのではないかと思います。また今回の勉強会は「手作り」にこだわり、嚥下食弁当の弁当マップには管理栄養士の手書きのイラストを用いました。

勉強会後の質疑応答ではたくさんの質問がありました。また勉強会后、個別に質問を下さった方も多数で「嚥下食の調理工程を教えてください。」「自分の施設の嚥下食の写真を撮ってきました。」と参加者の熱意が伝わってきました。事後アンケートでは全参加者が「次回も参加したい」に丸をつけて下さっていました。次回も「参加して良かった!」と思ってもらえるような内容を企画したいと思います。

今後は、今回の勉強会をスタート地点とし、「食支援の輪」を広げ、地域に貢献できるような様々な取り組みを展開していきたいと思っております。院内外の多くの方の参加を心よりお待ちしております。



嚥下食弁当 弁当マップ



嚥下食弁当



質疑応答の様子



当院の食事形態

## 編集後記

平成30年も残すところあとわずか。平成最後の秋も終わりに差し掛かってきました。以前は食欲の秋、読書の秋、芸術の秋というものがかででは言われていましたが、最近めっきり聞かなくなったのは時代の変化かなと寂しさも感じております。秋は良い時期が少ないので、晴れた日には美味しいパンでも買って、本を片手に音楽を聴きながら穏やかな時間を過ごせば...という小さな目標を達成したいものです。今年の冬が去年のように寒いか今から戦々恐々しております。気温差がある日々が続きますが、皆様お体ご自愛下さい。

広報委員

■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1  
e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/

鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221

訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640

やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645

通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637

■印刷元 さんきゅう印刷

